

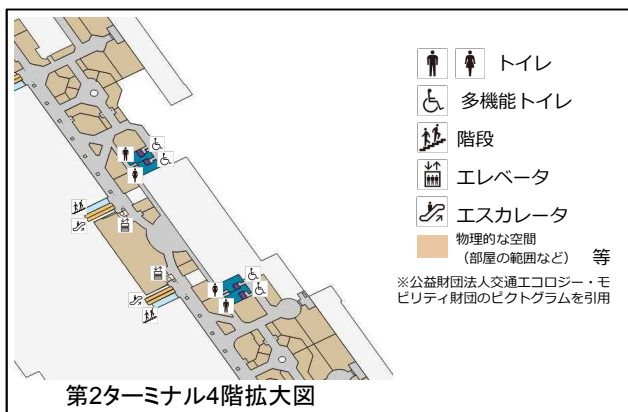
東京2020大会に向けた屋内電子地図の公開

- 国土交通省の「高精度測位社会プロジェクト」において実施した実証実験の成果である成田国際空港の屋内電子地図を、令和元年7月から**G空間情報センター***1にて公開開始。
- 国土地理院の**標準仕様***2に基づき作成された、**国内最大の国際空港の屋内地図**を新宿駅周辺、東京駅周辺、横浜国際総合競技場に続き一般に公開。
- 「誰でも」「自由に」「無料で」屋内地図をダウンロードすることができ、**多様な民間サービスで活用が可能**。

G空間情報センター

成田国際空港屋内地図オープンデータ概要

- 国土地理院の標準仕様に基づき作成された、国内最大の国際空港の屋内電子地図。
- 駅改札口から出国手続前の範囲を、ターミナル各フロア毎に作成。
- サービスの基盤となる屋内電子地図として、通路や階段、トイレ等のデータに加え、商業施設エリアについても店舗の区画を作成。
- 地図データとあわせ、通路の段差や勾配等を含む屋内ネットワークデータも公開。



屋内地図データ: <https://www.geospatial.jp/ckan/dataset/mlit-indoor-narita-airport>



屋内地図整備範囲

「誰でも」「自由に」「無料で」
屋内地図のダウンロードが可能

多様なアプリケーションにて活用

- 今回公開する屋内地図オープンデータを活用し、民間事業者等により様々なアプリケーションの開発が可能。
- 現在地を測定し、地図上に表示するとともに、他のオープンデータと組み合わせることで、目的地までのシームレスな案内が可能となる。



位置情報を活用してクーポン配信
交通機関を利用して他エリアへ

期待される屋内電子地図の活用例 (イメージ)

*1 平成28年に稼働が開始された産学官の地理空間情報を扱うプラットフォーム。官民間問わず様々な主体により整備・提供される多様な地理空間情報を集約し、利用者がワンストップで検索・ダウンロードし利用することが可能。

*2 「階層別屋内地理空間情報データ仕様書 (案)」 (平成30年3月)

- 2020東京オリ・パラを契機に、屋内や地下空間を含めた屋内外シームレスなナビゲーションを実現するため、先導的なモデルとして屋内電子地図・測位環境を整備し、実証実験を実施。
- 民間事業者等による様々なサービスが実現できる環境づくりを推進。

▼ 空間情報インフラ（屋内電子地図、測位環境）の整備

- 実証実験エリア（東京駅周辺、成田空港等）において屋内電子地図を整備、測位機器（ビーコン）を設置
- 連携業務（国土地理院）において階層別屋内地図の標準仕様書を策定
- 整備した屋内電子地図はG空間情報センターにてオープンデータ化し、設置したビーコンはパブリックタグに登録
- 実証を通じて得られた知見を基に、屋内地図/屋内測位環境構築ガイドラインとしてとりまとめ

▼ Android、iOS端末によるナビゲーションアプリの試作・実証、民間事業者との連携による実証

- 車いす利用者に向け段差のない/少ないルートのナビゲーション、日本語版・英語版の試作
- アプリストアで一般公開を行うとともに、被験者に現地で実際に使用してもらい、屋内位置情報サービスの評価を実施
- エリアマネジメントに取り組む協議会と連携し、災害時の救助活動支援における位置情報活用の実証を実施
- 民間のアプリベンダーなどに実験環境を公開し、屋内電子地図・測位環境等の評価を実施
(H28年度11団体、H29年度8団体、H30年度3団体が参加)



サービス実証箇所と実証アプリの画面



段差情報を踏まえたナビゲーション実証



実証実験で設置したビーコン (例)

- 屋内での位置情報を活用した多様な民間サービスの実現に向け、屋内電子地図等の整備・流通の推進のため、「G空間情報センター」を中核として位置付け、施設管理者や地図調整業、サービス事業者などから構成されるプラットフォームを構築。
- 産学官連携の下、実証実験箇所以外についても、素材データの収集・加工、屋内電子地図の利活用等を推進。

